体操改革運動におけるF．ヒルカーの役割について

菅井京子[1)]

A study about F.Hilker in Gymnastikbewegung

Kyoko SUGAI

Key words：Gymnastikbewegung，Deutscher Gymnastikbund，Deutsche Gymnastik

はじめに

グーツムーツ（J. C. GutsMuths, 1759-1839）やヤーン（F. L. Jahn, 1778-1852）がドイツ近代体育の先駆的役割を果たした後，学校への体育の導入は，19世紀中頃シュピース（A. Spieß, 1810-1858）によって始められ，マウル（A. Maul, 1828-1907）によってほぼ達成された。このシュピース=マウル方式の体操は，人間の身体運動を部分運動に分割し，それらをひとつひとつ学習させ，いろいろに組み合わせ，全体的な連続運動に仕立てていく徒手運動や，同様の発想による整列・行進を中心とする秩序運動を主要内容とするもので，当時の自然科学万能の合理的精神に基づき，号令に合わせて一斉に行われる幾何学的・形式的な集団訓練であった。これは，時代の精神とも相俟って一世を風靡した。しかし，その後，シュピース=マウルの体操はあまりに形式的，人為的であり，操り人形運動であるという批判を受けるようになり，これに代わる新しい体操が求められ，改革運動が起こった。

この体操改革運動には，新しい体操諸派の多くの多彩な活動が含まれている。すでに我が国でも，大谷武一著の『新しい体操への道』（1930）[6)]等の中で，それらの活動については早い時期から紹介がなされている。しかし，この諸派が連携して共同するような活動については記述が少ない。例えば，二宮文右衛門・今村嘉雄・大石峯雄著の『体育の本質と表現体操』（1933）[5)] p.31では，「1925年是等流派の指導者代表，即ち ボーデ，ラーバン，ローエランド，カルマイエル，メンゼンディーク，ギンドラーが伯林に会し，独逸体操G連盟を作った。現在この連盟にはあらゆる著名な流派が含まれている。この連盟の代表者は高等学校参与官ヒルカーHilkerである。」と数行しか見当たらない。

本研究では，20世紀の初め頃ドイツを中心にヨーロッパに起こった体操改革運動においてドイツ体操同盟が成立するに至った，およびその後の経緯についてのヒルカー（Franz Hilker, 1881-1969）の役割について，『芸術的身体修練　第３版』（1926）[7)]の序文やヒルカーの論文「身体教育の新しい課題」「ツルネンと体操」[2)]および『純粋体操』[3)]『ドイツ体操』[4)]を中心にして，『教育と授業のための中央研究所とその指導者たち』[1)]等を参考に考察を試みる。

Ⅰ.「芸術的な身体修練のための会議」

この集会は，1922年10月５日～７日，ベルリンで催された。これは，パラート（Ludwig Pallat, 1867-1946）が率いる「教育と授業のための中央研究所」とヒルカーが率いる「学校改革者決起同盟」が中心になって呼びかけることによって実現された。

そして，この集会の報告書として，『芸術的身体修練』が出版された。これは，パラート

１）生涯スポーツ学科

とヒルカーの編集によるものである。

パラートは，この報告書の第１番目の論文「身体と芸術」の中で，身体修練の問題をただ体育の領域の中でのみ捉えるのではなく，現在進行中の芸術的な運動とも照らし合わせるという視点をもつということが重要であると述べている。

そして，ヒルカーは，この報告書の第２番目の論文「身体教育の新しい課題」や当時の彼の論文「ツルネンと体操」で，体操についてより詳しく論じている。彼は，知識や技術を優先するような教育は，子どもたちの根元的で湧き出るような，創造力のある生命を損なうとして，教育学的な視点から，当時の主知主義一辺倒な社会的傾向や，図画や体育において技術や高い出来映えを求める成果主義に反対した。そして，身体的，心的，精神的バランスのとれた体験を重要視して教育する立場を貫いた。当時の体育・スポーツの主だった指導者たちは，ツルネンやスポーツの目指すべきものを技能であるとしてきた。彼は，そのようなツルネンやスポーツに対しても，最高の記録や技能を求めることに専念しすぎている，またそれによって運動が硬直し不自然になっていると批判した。体操にとって，技能は第二に求められるもので，体操の本質は，身体にいきいきとした生命力を再び取り戻し，外的な目標設定やそれを達成するための身体の酷使から生じる抑制から身体を解放する所にあると主張して，新しい体操を擁護し，体操改革運動を推進した。

Ⅱ．ドイツ体操同盟

パラートとヒルカーの３年間の『芸術的身体修練』再版，改訂の仕事の間に，彼らは，当時進行中であった新しい体操の試みや成果を取り入れ，体操改革運動に大きな推進力を与えた。

さらに，ヒルカーは1925年11月１日にドイツ体操同盟を結成し，集会当時は互いに全く何の関係ももたずに活動していた大きな体操学校等，すなわちカルマイヤー，ギンドラー，メンゼンディーク，ローエラント派の人々，ボーデ，そしてラバン等の諸派を強く結びつけることになった。その会則には「体操の奨励，普及，そして擁護」が目的として掲げられている。ヒルカーは，1925年から1933年まで，この同盟の議長を務めた。

ヒルカーは，体操諸派をまとめるだけでなく，それまで長く続けられていたツルネンやスポーツ団体との非難合戦にも終止符をうち，団結して新しい体操を普及させようとした。さらに，ヒルカーは，具体的な体操教授法の統一も図ろうと努力した。その結果が1935年の著名な指導要領小冊子『ドイツ体操』となった。こうしてヒルカーは，次の時代に，拠り所となる体操の指導要領を残した。

おわりに

ヒルカーは，芸術教育運動の視点をもち，極端な主知主義に偏った当時の教育に対し，いわゆる音楽，図画工作，体育の各教科の特性と可能性を考慮して，先発の改革が進んでいた図画に続いて体育の改革のために，体操に着手した。彼は，「教育と授業のための中央研究所」の活動や「ドイツ体操同盟」の設立およびその活動を通して，改革教育の立場から，体操改革運動を大きく推進した要の人物のひとりとして，重要な役割を果たした。

引用・参考文献

1）Böhme, G.（1971）Das Zentralinstitut für Erziehung und Unterricht und seine Leiter Verlag：Neuburgweier/Karlsruhe

2）Hilker, F.（1926）Turnen und Gymnastik, Leibesübungen 21.

3）Hilker, F.（1926）Reine Gymnastik, 2, Aufl., Max Hesses Verlag: Berlin

4）Hilker, F.（1935）Deutsche Gymnastik, Bibliographisches Institut：Leipzig

5）二宮文右衛門・今村嘉雄・大石峯雄（1933）体育の本質と表現体操，目黒書店：東京

6）大谷武一（1930）新しい体操への道，目黒書店：東京

7）Pallat, L. /Hilker, F.（1926）Künstlerische Körperschulung, 3, erweiterte Aufl. Ferdinand Hirt：Breslau